

## 社会資本総合整備計画『滋賀県管理ダムにおける長寿命化計画に基づく総合的なダム機能の回復および向上の推進（防災・安全）緊急対策』の事後評価

### ●委員

今の計画のバックグラウンドは治水ということだと理解した。実際、ダムは治水だけではなくて、農業用水などの利水の面もある。利水としての予算とうまく組み合わせて長寿命化を進めているのか？

### ●流域政策局

農水系のダムになると耕地課が所管しているものが別途ある。今回説明したのは治水ダムである。この中で唯一、利水の目的を有しているのは青土ダムであり、上水道、工業用水の機能を持っている。残りの5ダムについては、完全な治水ダムとなっている。農水系の利水ダムについては、別の予算で進められており、基本的にはこの交付金事業においては、治水を対象にしている。利水との調整との観点でいうと、青土ダムを今後改修していくときには、上水道や工業用水の事業主体である甲賀市や企業庁から予算を融通してもらい実施する。話は逸れるが、新聞等で事前放流という言葉聞いたことがあると思うが、運用の面では利水ダムと協力しながら治水の事業を進めているところである。

### ●委員

やはり縦割りになってしまうわけだね。実際には、工業用水にも使っている。機能としては利水と治水の両方を持っているが、予算としてはそうならざるを得ないという現状だね。

### ●流域政策局

青土ダム以外でも不特定容量といって、従前から田んぼの水を取っている方、その水の分は10年に1回の渇水でも、水が取水できるように容量としては持っている。ただ、その為にダムを造っているわけではない。詳しく把握はしていないが、農水系の事業をしようとするすると耕作者に負担金が生じる等、聞いている。そういった意味では、治水系の事業で実施することによって、住民の方々に負担金はないと。ただ、農水の水を100%確保するかという、そこは目的ではない。

### ●委員

出来るだけ協力してやってもらいたい。

### ●流域政策局

協力しながら進めてまいりたい。

●委員

説明資料の諸元のところに「F」、「N」、「P」等の記載がある。この意味を教えてください。

●流域政策局

石田川ダムの説明にある「F」は治水を目的にするもの。「N」は不特定用水、従前の田の取水や河川の維持用水。その横に記載してある総貯水容量というのが、FとNを合わせたものである。

姉川ダムの説明にある「P」は通常、発電を意味している。姉川ダムの場合は容量として発電を持っているわけではなく、河川維持のために通常流している水の力を使って発電しており、これを従属発電と呼んでいる。

青土ダムにある上水は「W」、工業用水は「I」、その他、農業用水は「A」と表現している。

●委員

今現在、中止になっている北川や芹谷ダムの今後の見通しについて教えてください。

●流域政策局

基本的には、河川の改修を優先ということで進めている。河川改修と、その他の県全体の河川の治水安全度の状況を鑑み、その時々々の状況をみて検討していく。現状については、担当ではないので詳しくは把握していない。

●委員

そもそも平成27年度に管理ダムの長寿命化の計画策定をしないといけないので、その為の策定事業として20百万円で事業をしている。これで、各ダムで何をすればよいかを決めたのか？

●流域政策局

各ダムの耐用年数が決まっているので、更新等のスパンが決まってくる。ダム毎に点検結果を踏まえて健全度を評価し、優先順位を付けたうえで、50年間において、こういったサイクルで更新、修繕をしていくのかを決めて実施していく。ダム毎で実施すると、どうしても予算に偏りが生じるので、なるべく平準化するよう6ダム間で健全度をみながら、どこを優先するか、均して維持管理計画を策定している。

●委員

そういった業務を業者にしてもらっている？流域政策局として、自らは出来ないのか？

●流域政策局

点検結果を数値化してもらおう等のところをお願いしている。それを見ての判断の部分は発注者がしている。機械的な作業の部分等を委託でお願いしている。

●副委員長

約 230 億円で 50 年間とあるが、その中身について、地球温暖化という言葉が出てくるが、それを見込んでいるのか？ 50 年間で外力がどれくらい大きくなり、それに対応したものが出来ると想定しているのか？

●流域政策局

ダム再生という言葉があるが、そういったものは含まれていない。あくまでも、今あるものを長く使うという観点で維持管理計画を作っている。

気候変動に伴い、堤体を嵩上げする等、ダム本体を改修して治水安全度を高めるダム再生計画の部分は考慮していない。あくまで維持管理のための計画となっている。

●副委員長

それはまた別途の事業になるのか？

●流域政策局

そうである。次の社総計画の中では、どこまで出来るのか、必要性があるのか、可能性があるのか等について、少し検討は進めていこうと考えている。

●委員

折角、頑張って事業を実施しているのに、現状の評価指標は、ダム毎に全部の工事が終わらないと、1基が完了ということにならないので、すごく印象が悪い立て方になっている。単純なアウトプットで良いが、実施しないといけない工事が何点かあって、その内どれだけ出来た、何%進んだと言えるような指標に変えていけないのかと感じた。

●流域政策局

ご指摘のとおり、最低限必要な項目とか、ランク分けして一番重要度の高いものだけ完了させるとか、そういったものも指標の一つになると思われるので、今後検討するうえで参考にさせてもらいたい。

(以上)